

衣笠山 ガイドブック

～金閣小学校「遊々の森」森林教室 10 周年記念～



平成 24 年 (2012) 3 月

京都森林インストラクター会

■はじめに

衣笠山は京都市街地の北に接する低山で、周辺には社寺や御陵など歴史的遺産がたくさんあります。森林や歴史に親しむには格好のフィールドといえますが、どうしたわけか、これまで市民にとって、あまり馴染みのある存在ではなかったように思われます。

そうした中、京都森林インストラクター会は、2001年から京都市立金閣小学校の児童を対象に、衣笠山で森林教室を始めました。2003年には、衣笠山国有林の一部が「遊々の森」に指定され、以来、当会は林野庁から森林学習・森林体験の指導を委嘱された団体として、自然観察や巣箱掛けなど、金閣小の子供たちと一緒に衣笠山で様々な活動を続けています。

この冊子は、金閣小の森林教室の開始から10周年を記念して、これまでの活動を取りまとめるとともに、衣笠山の素顔を紹介するガイドブックとして作成したものです。多くの方が衣笠山に親しむための一助になれば幸いです。

～京都森林インストラクター会とは～

京都に在住・勤務する森林インストラクターの有資格者を中心に組織する団体。森林インストラクターとは、森林・林業の知識の普及や森林の楽しみ方の指導などを行うため、平成3年に農林水産省が創設した資格（現在は民間資格に移行）。平成23年度の会員数は66名。年間120回（延べ2千人以上を指導）ほどの活動を実施している。

～遊々の森とは～

学校等による森林環境教育の推進に寄与することを目的として、国有林のフィールドを、自然観察など森林での学習活動、植林・間伐など体験活動に提供する制度。2002年に創設され、2010年度末現在、全国で162箇所設定されている。金閣小の森林学習は、遊々の森協定以降、国有林のフィールドが使えるようになり、巣箱掛けやきのこ栽培など体験学習の幅が広がった。



■目次

はじめに	・・・1	表彰・スクラップ	・・・16
衣笠山基本データ	・・・2	関係者からのコメント	・・・17
衣笠山の地理	・・・3	衣笠山アラカルト	・・・19
衣笠山の歴史	・・・5	衣笠山関連年表	・・・23
衣笠山の植生	・・・9	金閣小活動記録	・・・24
金閣小の森林教室	・・・11	質疑応答集	・・・25
子供たちの感想文から	・・・15	編集後記	・・・26

■衣笠山基本データ

- ・位置 京都市北区衣笠衣笠山町
- ・標高 201m
- ・名前の由来

今から 1100 年も昔のこと、宇多天皇が我儘にも夏に雪が見たいと申されました。困った朝廷の役人は苦肉の策として、都に面した北山の一つに白い衣（きぬ）を掛け、雪に見せたということです。それで天皇が納得したかどうかは分かりませんが、以来、その山はきぬかけ山、あるいは衣笠山と呼ばれるようになりました。これが衣笠山の名前の由来とされています。



■衣笠山の地理

衣笠山は、南からみると左右対称のきれいな山型をしています。尾根が南北に長く伸びているため、東側から見ると馬の鞍部のような形をしています。

衣笠山に登るには、衣笠幼稚園の横から入山し、急な坂道をまっすぐ尾根まで上がり、そこから左折して尾根道を山頂に向かうのがメインルートです。ほかに、きぬかけの路や金閣小第2グラウンドの南側からも入山が可能です。また、尾根道からは枝道を使って、西側にある朱山御陵へ行くことができます。

山の東南側は衣笠山国有林で、北側には金閣寺、西側には龍安寺の所有林があります。山頂には北区と右京区の境界線が通っていて、南西側は右京区、それ以外は北区に属しています。



幼稚園登り口



第2グラウンド



尾根道

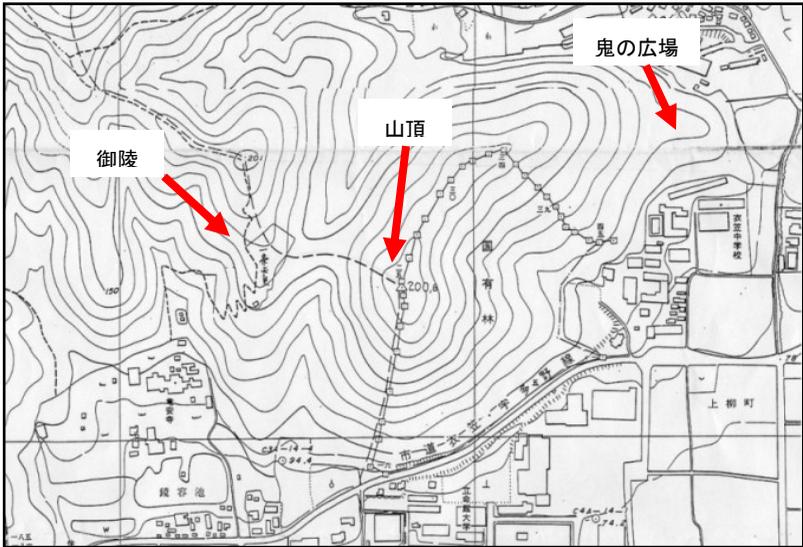


山頂

～衣笠山位置図～



～衣笠山平面地図～



～衣笠山航空写真～



■衣笠山の歴史

～地質時代～

衣笠山をつくる岩石はチャートといって、海の底に小さなプランクトンの遺骸が降り積もってきたものです。それが、今から2億年ぐらい前の造山運動によって隆起したことで、衣笠山は誕生したと考えられています。衣笠幼稚園への入り口付近にある、きぬかけの路沿いの切土面には、チャートの地層が斜めに変形した「しゅう曲」が見られます。詳しく調べると、放散虫などのプランクトンの化石が見つかるかもしれません。



衣笠山チャート層

～平安から江戸期～

平安京に都が移されると、衣笠山の周辺に社寺が建てられるようになります。東南側にある桜の名所、平野神社は平城京で祀られていた神々を勧請したのが始まりとされ、西南に位置する住吉大伴神社は、奈良の豪族・大伴氏が移り住み、祖先の神を祀ったものといわれています。住吉大伴神社の少し西にある仁和寺は、天皇の門跡寺院として、衣笠山の名前の由来にも登場する宇多天皇によって、仁和4年（888）に落成しています。



仁和寺



平野神社



住吉大伴神社

西暦1000年前後には、衣笠山の南西一帯に、円融寺（円融天皇）、円乗寺（後朱雀天皇）、円教寺（一条天皇）、円宗寺（後三条天皇）という4天皇の御願寺が創建され、四円寺と呼ばれていました。今の岡崎の地に建てられた、白河天皇ゆかりの有名な六勝寺にも引けを取らない立派な伽藍が立ち並んでいたよう

です。

現在、衣笠山の西隣の山中には、この四円寺に係する天皇ら7人の御陵があり、朱山七陵と呼ばれています。高い所から円融天皇火葬塚、次に一条天皇円融寺北陵と堀河天皇（後三条天皇の孫）後円教寺陵、麓の龍安寺に隣接して後三条天皇円宗寺陵・後冷泉天皇（後朱雀天皇の子）円教寺陵・後朱雀天皇円乗寺陵の三陵と禎子内親王（後三条天皇の母）円乗寺東陵の七つです。



円融天皇火葬塚



一条・堀河天皇陵



禎子内親王陵



左から後三条、後冷泉、後朱雀各天皇陵



一条・堀河天皇陵から双ヶ丘を望む

四円寺は、その後の火災や戦乱によりすべて廃絶してしまいましたが、室町時代になって円融寺の跡地に龍安寺が建てられました。また、等持院や金閣寺（鹿苑寺）もこの時代に建立され、衣笠山はこうした寺院の所領になったようです。ちなみに、五山の送り火の一つ、左大文字の起源は、はっきりはしないものの、室町が江戸時代の頃始まったのではないかとされています。衣笠山は、燃料や肥料の材料を採取する里山として地域の人々に利用されたため、

樹木がまばらにしか生えない、はげ山に近い状態だったと思われます。



龍安寺



金閣寺



等持院



江戸期の衣笠山（華洛一覽図より）



左大文字

～明治以降～

明治に入ると、政府は廃仏毀釈運動に取り組み、寺社有林の国有林化が進められました。衣笠山も一部が国有林となり、植林が行なわれる一方、保安林（風致保安林）や風致地区に指定され、森林の保全管理が図られます。衣笠山の山中には、そうした区域指定を示す標識や杭があちこちに立っています。

大正から昭和にかけて、衣笠山周辺は環境のよさから、堂本印象、福田平八郎、小野竹喬、金島桂華など多くの画家が住むようになり、衣笠絵描き村と呼ばれたこともありました。今ある府立堂本印象美術館は印象の自宅の隣に建



昭和10年代の衣笠山

てられたものです。

戦後、南側の宅地化が進むとともに、立命館大学の衣笠キャンパスが整備され(昭和20年代にはプロ野球の球場があったことも)、昭和36年にはきぬかけの路が開通しました。終戦直後、衣笠山北側の原谷地区に引き揚げ者が入植し、農業や畜産が営まれましたが、

今はすっかり住宅街に変貌しています。

昭和30年代の燃料革命以降、衣笠山は人の手が入らなくなったため、樹木が生い茂るようになり、それまでとは随分様相が変化しました。



きぬかけの路



原谷入植記念碑



府立堂本印象美術館

衣笠山内の石標



国有林の境界標



宮内庁の境界標



歴史的風土特別保存地区標識



保安林の標識

金閣寺の境界標

龍安寺の境界標

■衣笠山の植生

衣笠山の植生は、大きく4種類に分けられます。1つは尾根筋に見られるアカマツ林、2つ目は南側の谷筋ほかに見られるヒノキ林、3つ目は北東側や南西側の麓に広がる雑木林、4つ目は東側の麓にあるシイ(コジイ)林です。それぞれ、形成された歴史的経緯が異なり、違った特徴を持っています。

アカマツ林

アカマツは、もともと栄養分の少ない痩せた土地に生える木です。衣笠山でも痩せた尾根筋に見られますが、かつては人が燃料・肥料用に落ち葉などを採取したために、衣笠山全体がアカマツ林だったこともありました。マツタケもたくさん採れたようですが、近年は松枯れによって、アカマツ林は急速に衰退しています。



ヒノキ林

昭和30~40年代、拡大造林といって、植林に適し材質に優れたスギ、ヒノキが盛んに植えられました。当時外材が高かったため、自前で木材を確保しようという国策だったのですが、皮肉にも現在は外材の方が安くなって、国産材は苦境に立たされています。衣笠山南麓のヒノキ林は林野庁が管理するもので、樹齢はなんと125年。西麓と北麓にもそれぞれ龍安寺と金閣寺が所有するヒノキ林があります。



雑木林

昭和30年代の燃料革命までは、森林は薪や炭の材料を提供する場所でした。とくにコナラやクヌギは適材で、十数年周期で伐採と更新が繰り返されていました。衣笠山の雑木林もかつての薪炭林の名残だと思われます。「鬼の広場」と呼ばれる平場は、炭小屋や炭窯の跡地なのかもしれません。ここ数年、ナラ枯れによってコナラやクヌギの枯損が進んでいます。衣笠山では、アカマツとともにコナラも減りゆく運命のようです。



シイ林

西日本の本来の植生は、シイやカシを主とする常緑広葉樹林であるといわれています。有史以来人間の手がかわっていたために、京都ではそのような森林はほとんど見られませんでした。燃料革命後、放置された森林の遷移が進み、たとえば東山辺りでは、シイの木が随分と分布を広げています。衣笠山のシイ林も今は面積的に小規模ですが、やがてアカマツ林や雑木林に取って代わるのかもしれません。



～松枯れとは～

マツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウにより、マツ類が枯死する樹病。マツノザイセンチュウは北米産で明治期に日本に持ち込まれたとされる。



マツノマダラカミキリ マツノザイセンチュウ

～ナラ枯れとは～

カシノナガキクイムシが媒介する菌類により、コナラ、クヌギなどブナ科の樹木が枯死する樹病。日本海側から被害が広まり、衣笠山では2009年頃から被害が発生している。



被害を示す木くず カシノナガキクイムシ

～遷移とは～

一旦森林が破壊されたあと、本来その地に分布すべき森林（極相）に向けて、森林形態が変化していくこと。京都地方の場合、〈地衣類→草本類（ススキなど）→陽樹（アカマツ、コナラなど）→陰樹（シイ・カシ類＝極相）という経過を辿るとされる。

■金閣小の森林教室

～自然観察～

毎年11月、3年生を対象に、金閣小の第2グラウンドを出発し、衣笠山の山頂から朱山御陵を經由して金閣小へ戻るコースで行います。1班10～15名程度に分かれ、それぞれに森林インストラクターが付いて、植物、キノコ、動物の痕跡、鳥の鳴き声などの解説をしながら歩きます。子供たちは興味津々、途中のお弁当も楽しみです。



～落ち葉のパウチ、どんぐりクラフト～

自然観察から学校へもどると、持ち帰ってきた、赤や黄色に色づいた落ち葉を、A4版のパウチにはさみ、感想などを書き込んで思い思いのカードを作ります。また、拾い集めたクヌギやアベマキなどのどんぐりで、アクセサリーづくりも行います。



～けもの道探検～

4年生を対象に2月頃、巣箱はずしと併せて行ないます。衣笠山の山頂から東側のヒノキ林に向かって、急なけもの道を動物になった気持ちで一気に下り降ります。はしゃがないように、と注意しても、ワーワー、キャーキャーとそれは賑やかなことです。



～ナラ枯れ跡地への植樹～

2012年2月、10周年を記念して4年生が、ナラ枯れの伐採跡地に、エゴノキやアカシデなどの地域性苗木30本を植栽しました。鹿害防止ネットで囲われたエリアに、自分たちで植え穴を掘り、土壌改良材や肥料を施し、標柱も取り付けました。大きく育ちますように、と願いを込めて。



～巣箱掛け～

毎年3月頃、3年生を対象に行います。まず、学校で野鳥について学習し、各自が好きな鳥の絵とメッセージを書いた表札を作って、巣箱に釘で打ち付けます。巣箱は4人に1つとし、正面と両サイドに表札が貼り付けられます。それが済むと、巣箱を持って衣笠山に移動し、絶対入ってね！という思いを込めて針金で木に据え付けます。

翌年、4年生の2月頃、巣箱の利用結果の報告を受けたあと、自分たちの掛けた巣箱をはずしに行きます。鳥は入っていないくても、ヤモリや昆虫を発見すると大騒ぎになります。はずした巣箱は掃除などの手入れをして、次の3年生の巣箱掛けに引き継がれていきます。



～キノコの菌打ち～

4年生、もしくは5年生を対象に、2月頃に行います。学校でキノコについて学習したあと、ほだ木を4人に1本用意し、電動ドリルで穴を開けて、シイタケ、ナメコ、ヒラタケなどの種駒を木槌で打ち込みます。それから、2人ずつ交代でほだ木を担ぎながら、衣笠山まで運び、伏せ込みを行います。1年後にはキノコが始め、最盛期には収穫したキノコを給食や調理実習で試食することもあります。



■子供たちの感想文から

3年のとき、巣箱をきぬがさ山にかけにいきました。ぼくはヒナが落ちても大じょうぶなように巣箱の下に落ち葉をいっぱいきつめました。ぼくは鳥が入ってくれるかなと、ときどきしました。（4年男子）

森林インストラクターさんにいっぱいおしえてもらったので家ぞくをきぬがさ山にしょうたいしたいです。いつか家ぞくみんなでいきたいです。（3年女子）

「昔は山の木を使ってくらしていたことを初めて知りました。3年から4年までいろいろなインストラクターの人と衣笠山に行って楽しかったです。また行きたいです」。（4年女子）



森林教室で初めてした植物は、見分け方も楽しいのでまたきぬがさ山でいろいろな植物を見分けたいと思います。何千何百とある木のしゅ類をおぼえて、インストラクターさんに負けないぐらいおぼえたら、インストラクターさんのように森林教室のインストラクターになりたいと思います。ただし、30代になってからしたいと思います。（3年女子）

リーダーさんがけむりの出るキノコを見つけはって、わたしは「どんなふうにはほこりがたつのかな。」とっていました。とんとんとかるくたくと、本当のけむりみたいなのが少しずつ出てきました。すごかったです。（3年女子）



■表彰・スクラップ



賞状

全国木材組合連合会会長
 森野まこと多々全 久山多代子 殿
 京都府立木造建築局 仁平 亮 殿
 賞分は平成七年度国営林野事業業務
 研究発表会森林文化あり部門において
 業務研究の優れた成果を発表され
 頭書の成績を収めるとともに今後の
 国営林野事業の発展に寄与するも
 大きき認められたいを賞する

平成七年十一月十日
 全国木材組合連合会 庄司橙太郎
 社印

キノコの菌打ち 児童ら作業体験

北区の
金閣小

京都市北区の金閣小で、同校体育館に五年生約
 十三日、キノコの菌打ち
 作業が行われ、児童たち
 は、ナラの原木にシイタ
 ケ菌を次々と打ち込む作
 業を体験した。

同小は、二年前から近
 くの衣笠山で野外活動を
 行っている。自然界での
 役割やキノコ栽培法等を
 児童たちに学んでもら
 おうと、今回初めて企画
 ついて、今回初めて企画



懸命に菌打ち作業をする児童たち
 (京都市北区・金閣小)

菌たちは、服にドリルで
 飛び散った木の粉をつけ
 ながら熱心に作業に取
 組んだ。

吉田大亮君(こは)は、キノコが、こんなに早くに栽培されているとは思わなかった。収穫するのが楽しみです。

衣笠山の自然 児童も考えて

京都森林
インストラクター

マップ、金閣小に贈る

京都森林インストラクター 金閣小は四年前から自
 ター会(橋詰良彦代表) 然に恵まれた立地を生か
 が二日、森林体験学習で、同会の指導で授業に
 交流する京都市北区の金 野外活動を取り入れてい
 関小児童に、衣笠山固有 する。マップは、人間が
 林の(遊々の森) マップ 建築資材として植えた
 をプレゼントした。体験 ヒノキ林や燃料に使わ
 学習に活用している森 っていた樹木、野鳥、植
 で、メンバーは「身近な 物など児童がこれまで
 自然について考えてもら 観察した衣笠山の自然を
 えた」と話している。 分かりやすいイラストで



紹介しており、千部作っ
 この日は六年生約百四
 十人が、遊々の森で冬場

京都森林インストラク
 ー会の作ったマップ、衣
 笠山の魅力が描かれてい
 る。京都市北区・金閣小
 に菌打ちしたキノコのほ
 だ木の設置作業を終えた
 後、マップを配った。興
 味津津に見入る児童に、
 橋詰代表は「森が人間生
 活と深くかかわってきた
 ことを忘れないで」と語
 りかけた。

マップは、同会のホー
 ムページ(Url: http://www.associates.jp/forest/)からダウンロードできる。

■関係者からのコメント

～金閣小学校教諭 山中智子～

京都森林インストラクター会の皆様、10周年おめでとうございます。わたしの家からは、四季それぞれの景色の衣笠山を眺めることができますが、それは、近くにいて見るだけの山でした。ところが、8年前に金閣小学校に赴任して担任した5年生がこんなことを言うのです。「先生、森林教室があるんやで」「エビフライって見たことある？」森林教室とは、京都森林インストラクター会にお世話になって、衣笠山の自然について学ぶ総合的な学習のことでした。「エビフライ」は、リスが松ぼっくりをかじったあとがエビフライに似ていることからきたものでした。子どもたちは、生き生きと森について語り始めたのです。それから、毎年子どもたちと森林教室を重ねてきました。シイタケ、ナメコ、ヒラタケの菌打ちを体験した年は、自然の中のそれらがいかに伸び伸びと大きく生長するかを知りました。けもの道を下ったときの子どもたちはもう大騒ぎで、叫んだり泣いたり一回転しながらも最後は満面の笑みでした。

しょうゆのにおいのする葉。高い梢に見つけた鳥の巣。スフレのようなふわふわキノコ。「ナラ枯れは森の SOS」と聞いて顔が曇る子どもたち……どれもこれも、子どもたちの感情を揺さぶり脳を刺激してくれるものばかりでした。この3月には春を待つ衣笠山を探索し、巣箱を外します。この10年間金閣小学校の子どもたちにすてきな経験の場を与えてくださったことを本当に感謝いたします。

～林野庁京都大阪森林管理事務所所長 外山武比古～

「衣笠山遊々の森」森林環境教育活動10周年、おめでとうございます。

当該活動により、これまでに森林が豊かに、そして美しくなってきたことにつき、ひとえに金閣小学校関係者はじめ指導・助言されている京都森林インストラクター会の皆様のご尽力に対して深潭の謝意を申し述べる次第です。

京都三山の美しさは、古来より人の手が加えられてきたことで保たれてきました。しかしながら、一時期、人の手を加えることは合自然的でないとする風潮もあり、自然の摂理に委ねることもありました。結果として、マツクイムシやナラ枯れによる枯損と相俟って植生遷移によりシイ・カシ等常緑樹が繁茂し、多くの方が求める京都の森林景観とはかけ離れるようになりました。

今後とも、「衣笠山遊々の森」森林環境教育活動の継続を通じて、京都三山の森林美の再生がなされることを期待してやみません。

～京都森林インストラクター会会長 篠部幸雄～

京都の市街地は山に囲まれ、その緑は心を和ませてくれるものですが、多くの人は自然・森林と隔絶された生活をしており、特に子供はゲーム等もあってその傾向が著しくなっています。

そういう時代にあって、我々京都森林インストラクター会は10年間、金閣小学校の3～5年生を主な対象に、衣笠山で環境・森林教育を実施してきましたが、これは重要な意味があると思います。

感受性が豊かな小学生時代に、近くの森林の中で、森のことをよく知っている指導者のもとの、実際に動植物に触れて学習できたということは、子供にとって一生の財産になると思います。大人になっても、また自分の子供たちに体験を伝えていくことができるのではないのでしょうか。

この活動を10年間続けてこられたこと自体が我々にとっても大きな財産ですが、今までの蓄積を記念誌という形で取りまとめることができました。これがさらに次の発展につながる礎にならんことを期待しております。



■衣笠山アラカルト

～花・実・紅葉など～



カツラ



カキ・モミジバフウ



クロバイ



コバノミツバツツジ



コバノガマズミ



シデザクラ



モチツツジ



ピラカンサ



ヤブガラシ



サルトリイバラ



アオツツラフジ



カラスウリ



クヌギ



アラカシ



アベマキ



クリ



コジイ



コナラ

～樹皮～



コナラ



アベマキ



ヒノキ



リョウブ



ネジキ



アカマツ



スギ



～冬芽～



アカメガシワ



ネジキ



リョウブ



サカキ



イロハモミジ



アラカシ



フジ

～「鬼の農場」の四季～

夏



秋



冬



～キノコ～



クチベニタケ

セイタカイグチ

ツチガキの仲間

ヒトクチタケ



ノウタケ

アカヤマドリ

ツルタケの仲間

フサヒメホウキタケ



テングタケ

ホコリタケ

シロオニタケ

ベニナギナタタケ



チチタケ



コツブタケ



ハナヤスリタケ



クモタケ



オオセミタケ



セミノハリセンボン

～生き物たち～



リスの食痕 (通称エビフライ)



ボクトウガのフラス



ヤモリの卵



クヌギの葉の虫えい



ツクツクボウシの羽化



ヤマムガの繭



オトシブミ



センチコガネ



ニイニゼミの抜殻



ヤモリ



アブラゼミ



キアシナガバチ



シマヘビ



アオダイショウ



アカガエル



■衣笠山関連年表

区分	西暦	年号	出来事
平	794	延暦13	平安遷都
	"	"	平野神社創建
	834	承和1	住吉大伴神社創建
	888	仁和4	仁和寺落成(宇多天皇)
	983	永観1	円融寺創建(円融天皇御願)
	998	長徳4	円教寺創建(一条天皇御願)
	1055	天喜3	円乗寺創建(後朱雀天皇御願)
1070	延久2	円宗寺創建(後三条天皇御願)	
室 町	1343	康永2	等持寺別院(等持院の前身)創建(足利尊氏)
	1397	応永4	鹿苑寺(金閣寺)創建(足利義満)
	1450	宝徳2	龍安寺創建(細川勝元)
明 治	1868	明治1	神仏分離令(廃仏毀釈運動)
	1873	明治6	平野神社に小北山小学校(衣笠小学校の前身)開校
	1881	明治14	国が御陵林として買上げ
	1899	明治32	衣笠山国有林となる(国有林野法公布)
大 正	1921	大正10 大正末	マキノ省三が等持院撮影所設立 堂本印象、福田平八郎、小野竹喬などの日本画家が居を構え、 「衣笠絵描き村」と呼ばれる
	昭 和	1930	昭和5
1939		昭和14	立命館日滿高等工科学校、衣笠キャンパスに開校
1948		昭和23	衣笠中学校開校
"		"	原谷地区に19世帯が入植
1948		昭和23	衣笠球場開設(昭和25～29年:プロ野球松竹ロビンスの本拠地)
1953		昭和28	衣笠幼稚園創立
1954		昭和29	立命館大学理工学部3号館、衣笠キャンパスに完成
1955		昭和30	風致保安林に指定
1958		昭和33	衣笠小学校宮敷分校設置
1961		昭和36	市道衣笠宇多野線(観光道路)開通
1965		昭和40	衣笠小学校宮敷分校が第2衣笠小学校として独立
1972	昭和47	第2衣笠小学校を金閣小学校に改名	
1966	昭和41	堂本印象美術館設立	
1969	昭和44	歴史的風土特別保存地区に指定	
平 成	1991	平成3 " "	堂本印象美術館が府に寄贈され「京都府立堂本印象美術館」となる 市道衣笠宇多野線(観光道路)の愛称が公募により「きぬかけの路」 に決まる。
	2008	平成20	原谷開拓農協解散

■金閣小森林教室活動記録

平成	西暦	月/日	活動内容				
			内容	対象	児童数	参加会員数	
13	2001	11/1	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生	100	7	
14	2002	11/6	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生	135	8	
15	2003	11/18	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生	118	11	
16	2004	3/4	巣箱かけ	4年生	135	6	
		11/12	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生	125	13	
17	2005	1/17	巣箱はずし、キノコの菌打ち	5年生	139	11	
		2/21	巣箱かけ	3年生	125	8	
		6/2	ほだ木の本伏せ	6年生	140	6	
		11/8	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生	113	12	
18	2006	2/10	巣箱はずし、タイプ別森林観察、「けもの道」探検	4年生	127	8	
		3/7	巣箱かけ	3年生	114	6	
		11/17	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生	144	14	
19	2007	2/14	巣箱はずし、タイプ別森林観察	4年生	114	10	
		3/7	巣箱かけ	3年生	144	9	
		11/13	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生	125	17	
20	2008	2/12	巣箱はずし、タイプ別森林観察	4年生	144	11	
		3/5	巣箱かけ	3年生	121	9	
		6/18	通年の自然観察(初夏)	5年生	144	9	
			巣箱の結果報告	4年生	121	5	
		10/3	通年の自然観察(秋)	5年生	144	9	
		10/22	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生	117	10	
21	2009	12/3	通年の自然観察(冬)	5年生	144	11	
		2/12	巣箱はずし、キノコの菌打ち	4年生	124	9	
		3/4	巣箱かけ	3年生	117	5	
		7/2	巣箱の結果報告	4年生	117	4	
		10/21	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生、 にじの子学級	123	12	
22	2010	2/5	巣箱はずし、タイプ別森林観察、「けもの道」探検	4年生	117	6	
		3/3	巣箱かけ	3年生	107	6	
		7/15	巣箱の結果報告	4年生	111	3	
		11/19	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生、 にじの子学級	116	11	
23	2011	2/18	巣箱はずし、タイプ別森林観察	4年生	111	5	
		3/3	巣箱かけ	3年生	99	5	
		7/1	巣箱の結果報告	4年生	99	2	
		11/18	自然観察、工作(ドングリキーホルダー、落ち葉のパウチ)	3年生、 にじの子学級	123	11	
24	2012	2/16	巣箱はずし、10周年記念植樹	4年生	99		
		3/2	巣箱かけ	3年生	107		
					のべ人数	4,403	289

■ 質疑応答集（3年生の質問と森林インストラクターの答え）

Q 1 衣笠山で一番大きな木は何ですか？

A 1 たぶん、ヒノキが一番大きくて、立命館大学の駐輪場裏あたりのヒノキは高さが20メートル以上あります。

Q 2 死んだ木にはなぜキノコが生えるのですか？

A 2 キノコはとても大切な役割を持っていて、植物が死んでしまったあと分解して土に還るのを助けています。

Q 3 衣笠山にドングリは何種類ぐらいありますか？

A 3 今日見つけたドングリは、アベマキ、クヌギ、コナラ、アラカシ、コジイの5種類でした。

Q 4 キノコの裏のシワシワは何ですか？

A 4 植物は種子で増えますが、キノコは孢子で増えます。その孢子がシワシワの間に出来るのです。

Q 5 木の節穴はなぜできるのですか？

A 5 木の節穴は、動物が空けたものではなく、木の枝が枯れて落ちた後、幹についている枝の付け根も腐って抜け落ち、穴になったものです。

Q 6 毒キノコと食べられるキノコの見分け方はあるのですか？

A 6 「ない」と覚えて下さい。見分け方はとても難しいので、キノコの専門の人に必ず確認してから食べるようにしてください。

Q 7 最初に誰が衣笠山に木の種とかまいたのですか。今でもまいていますか？

A 7 衣笠山に最初に種が落ちたのは、おそらく風で運ばれたか、動物が運んで落としていったものだと思います。その後、衣笠山に種を蒔いた人はいるかもしれませんが、よくわかりません。今は人が山に種を蒔くというのはほとんどなく、スギやヒノキなどの苗を植えることが時々あります。

Q 8 雨が降らない時でも植物がかれないことが不思議です。なぜです？

A 8 植物は土の上に生えています、その土には降った雨を貯めておく働きがあります。ちょうど、スポンジに水を含ませた状態と同じようになります。衣笠山の土を少し掘ってみれば、意外と湿っていることに気がつくと思います。それで、植物は枯れずに生きていけるのですね。



■編集後記

おかげさまで10周年！これまで携わって下さった先生方や、平日の忙しい中参加してくれた会員のおかげです。10年間の参加会員をデータ取りしてみると、のべ約300人が参加し、そのうち5回以上参加している会員がのべ人数の45%以上を占めています。これはリピート率の高さを示していて、一度ハマると繰り返し参加したくなるやりのある行事だと言えます。ハマる理由は、やはり子ども達の笑顔やリアクションでしょう。金閣小の卒業生ということで担当してきましたが、10年間でまとめた記念誌をステップにこれからの社会を担う子ども達への環境教育、自然体験を今後も出来る限り長く続けていきたいです。（磯野）

金閣小の森林教室は、2001年当時の先生方が「子供たちに自然への興味を持たせてあげたい、面白く楽しく歩こう！」と考えられ、京都大阪森林管理事務所を通じて当会にプログラム作成を依頼されたことが始まりです。私たちは張り切って、何度も何度も衣笠山を歩き、コースとプログラムを練り上げました。さて子供たちから及第点はもらえているでしょうか？ 10年間通い続けた衣笠山は、今でも入るたび新しい発見があります。この記念誌で、子供たちや先生、当会のメンバーと一緒に見つけた衣笠山の魅力をお伝えできれば幸いです。（才本）

実はワタクシ、衣笠幼稚園の卒園生でして、在園中、先生に連れられてたびたび衣笠山に登ったことが、後年森林に関心を持つにいたる原点だったような気がします。もう、半世紀も前の話ですけど。そういうわけで、衣笠山には特別な思い出があり、金閣小の森林教室には当初から参加してきました。一応指導する立場なのに、毎回子供たちの新鮮な感性に驚かされたり、色々なことに気づかされたり。会員以外の方にも衣笠山の奥深さや、子供たちとの活動の楽しさを出来る限り伝えられるよう、編集に当たった次第です。（鳥越）

衣笠山ガイドブック ～金閣小学校「遊々の森」森林教室 10周年記念～

発行年月日	平成24年3月30日
編集・写真	京都森林インストラクター会 担当 磯野文彦 才本隆司 鳥越一郎
装丁・デザイン	岩井有加
イラスト	嶋田香苗
写真等協力	林野庁京都大阪森林管理事務所 京都府 京都市
発行者	京都森林インストラクター会 会長 篠部幸雄
印刷所	株式会社 竹田謄写堂

